

美里町



佐野神楽

美里町南郷の二郷佐野地域には、南部神楽なんぶかぐらが伝わっていたといえます。志波姫村梅崎の南部笹流梅崎神楽なんぶささりゅうめざきかぐら（現在の大平神楽）の座長格であった鹿野3兄弟のうち、長兄の三代吉こごたちょう ふうどうどうが小牛田町の不動堂に招かれ神楽を教え、末弟の吉三郎は南郷村の二郷佐野なんごうむら にごうさのに招かれ熱心に指導し、それぞれで神楽が誕生しました。



佐野神楽が独り立ちしたのは、厳しい稽古を終えた大正5・6年頃と言われています。地元の塩釜神社の例大祭で初舞台を踏み、南部神楽の特徴を色濃く受け継いだ勇壮な舞とともに「佐野の神楽師たち」と呼ばれて親しまれました。昭和20年の終戦を境に途絶えてしまい、現在ではその姿を見ることはできませんが、地元の方々の心の中に、今なお生きています。